

## 資料

## 南新保C遺跡発掘調査

調査原因	金沢市南新保土地区画整理事業
調査地	金沢市南新保町地内
調査期間	令和6年9月～12月（予定）
調査面積	3,350㎡

## 1. 周辺の遺跡

南新保遺跡群は金沢平野の北西部、金沢港までは約2kmの臨海部に位置する。現在は水田や果樹園が広がる田園風景であるが、かつては沼が広がり小川が網目状に流れる低湿地であり、その中の微高地上に複数の遺跡が点在していたようである。周辺には南新保A～E遺跡、南新保三枚田遺跡のほか、弥生時代の大集落である西念・南新保遺跡などが分布している。

## 2. 過去の調査

南新保C遺跡は平成8・9年度に石川県埋蔵文化財センターが、令和2～5年度に金沢市が発掘調査を行っており、弥生時代中期～古墳時代中期、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代の遺構と遺物が出土している。特に弥生時代中期～古墳時代中期の住居跡や墳墓が多数検出され、当時の生活を生き生きと伝える多彩な土器や木製品、石製品が出土しており、大規模な集落が営まれていたことが明らかになっている。

## 3. 今年度の南新保C遺跡の発掘調査

前方後方墳の周溝、方形周溝墓3基、木棺墓状土坑、平地式建物2棟のほか、複数の土坑、溝、ピットなどが検出されている。

**前方後方墳** 平成8年・9年度調査（石川県埋蔵文化財センター実施）で検出された前方後方墳の後方部周溝の延長が検出された。周溝の幅は約3.5m、深さ0.6mで、南西～北東方向に直線的に伸び、北東側で直角に屈曲する。令和5年度の調査では、周溝が屈曲後、北西方向に約1.5m伸びたところで終結するのを確認している。終結部分の立ち上がりは底面から30cm程のみ残存しており、それより上部は近代以降の河川跡に壊されている。周溝の墳丘側の覆土からは、底部に穴のある古墳時代前期の土器が2点出土した。このような土器は方形周溝墓や古墳から出土することが多く、葬送儀礼の中で供献されたものと考えられている。土器は周溝底部から約20cmの覆土中で出土しており、墳丘部に安置したものが転落したと考えられる。また、周溝屈曲部の底面からは、布巻具と考えられる両端部を加工した扁平な木製品や、1m以上の長さがある

棒状木製品が多数出土している。

今回の調査により、これまで推定値とされていた墳丘の規模が確定されることになる。墳丘長は約31mであり、現在墳丘長が明らかとなっている前方後方墳の中では、北加賀最大となる。

**方形周溝墓** 3基とも周溝の四隅を掘り残す形状で、墳丘は既に削平され、埋葬施設などは残存していない。方形周溝墓③の南側周溝は約20cmの深さで底のみ残存する状況であったが、中央からは弥生時代後期後半の高杯1点が潰れた状態で出土した。方形周溝墓①・②の周溝は、長辺約7m、短辺約1.7m、深さ0.5mを測る。方形周溝墓①は弥生時代後期のものと考えられ、ほぼ完形の赤彩壺や鉢、台付鉢などの多数の土器が出土した。方形周溝墓②からは、細片ではあるが、同時期の土器が出土した。

**平地式建物** 平地式建物①は、大きく削平を受けているが、細長い土坑が円弧状に連続する周溝を持ち、そのほぼ中央に柱穴が見ついている。平地式建物②は幅約1.1mの周溝が円形にめぐる。建物は竪穴部をもつと考えられ、周溝の内部には壁際に板材などを据え付ける際の壁溝が確認された。どちらの平地式建物からも弥生時代中期後半の土器が出土している。

**木棺墓状土坑** 木棺墓状土坑①は、長さ2.3m、幅0.9m、深さ0.4mの方形を呈する。その形状から土坑に木棺を据える木棺墓と考えられるが、板材の痕跡を明確に確認することはできなかった。同様の木棺墓となる可能性がある土坑が複数みついている。どの土坑も出土遺物が全く見られないため、時期の特定にはさらなる検討が必要である。

#### 4. まとめ

---

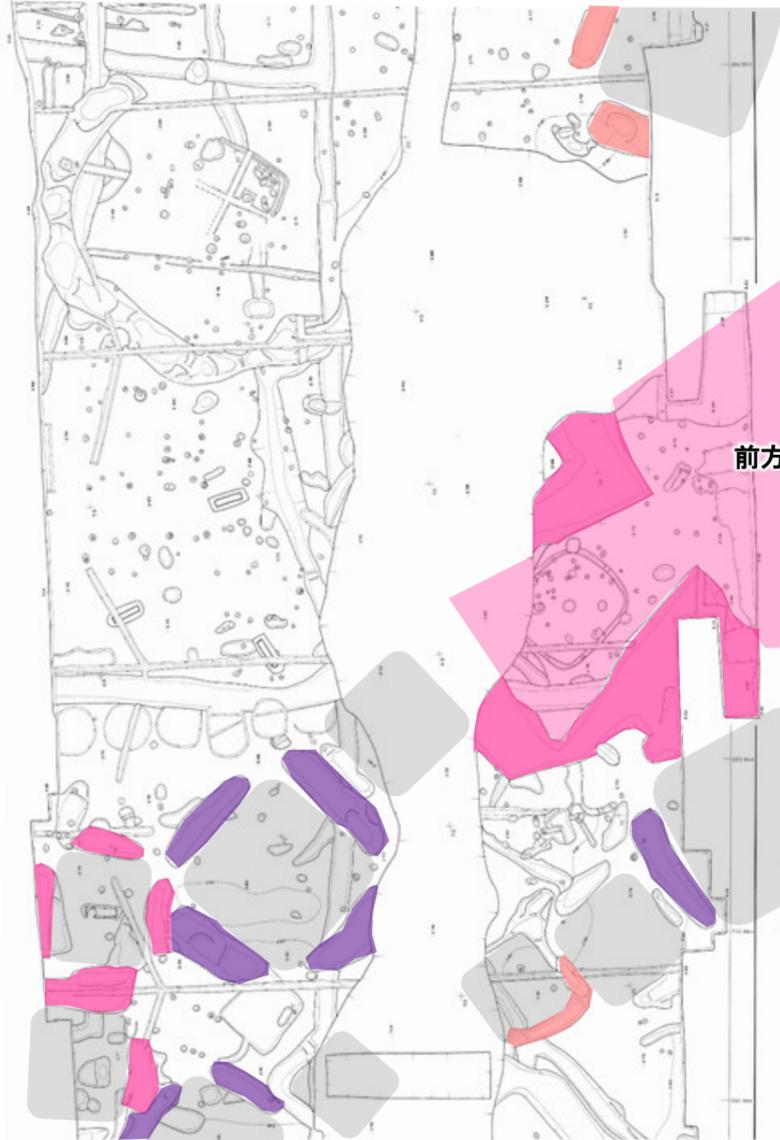
本年度の調査で検出された前方後方墳は墳丘長約31mであり、北加賀最大の規模を持つ。大きな古墳ほど築造には多くの労力を必要とするため、古墳の大きさはその地域勢力の規模、ひいては地域有力者の権力の大きさを表すと考えられている。北加賀最大の前方後方墳の存在は古墳時代前期に大規模勢力及び有力者が本遺跡周辺に存在していた可能性を示すものであり、さらにその母体として弥生時代中期後半から終末期に方形周溝墓を多数築造する大規模集団が存在し、古墳時代へと移行する中でその集団が一大勢力へと発展していく過程が示されている。

今回の調査の結果、古墳時代前期における南新保周辺の勢力関係の一端が明らかとなった。今後は過年度調査成果と合わせながら本遺跡の全体像の検討を続けていく予定である。

# 南新保C遺跡

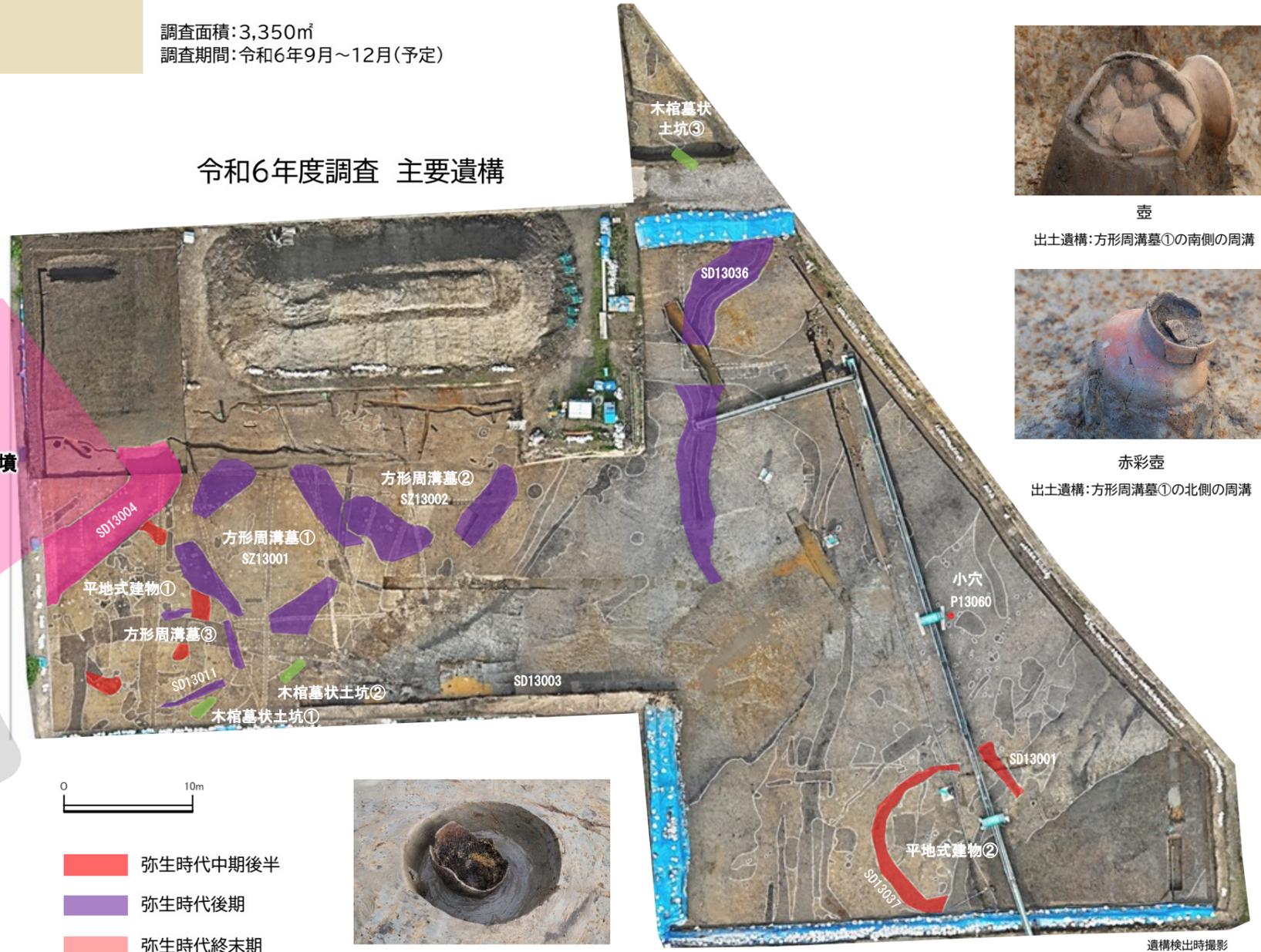
調査面積: 3,350㎡  
調査期間: 令和6年9月~12月(予定)

平成8・9年度調査  
(石川県埋蔵文化財センター)



石川県埋蔵文化財センター提供図を編集

## 令和6年度調査 主要遺構



- 弥生時代中期後半
- 弥生時代後期
- 弥生時代終末期
- 古墳時代前期



甕  
出土遺構: 小穴(P13060)



壺  
出土遺構: 方形周溝墓①の南側の周溝



赤彩壺  
出土遺構: 方形周溝墓①の北側の周溝

遺構検出時撮影



前方後方墳の周溝 完掘  
SD13004



前方後方墳の周溝 断面  
写真中右側の土器は底部穿孔土器1



底部穿孔土器1  
出土遺構: 前方後方墳の周溝



底部穿孔土器2  
出土遺構: 前方後方墳の周溝



高杯  
出土遺構: 方形周溝墓③の南側の周溝